

愛と献身の足跡

愛と献身の足跡

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
2025

はじめに

敬愛する金正恩（キムジョンウン）総書記が朝鮮人民を導いてから10余年という年月が流れた。

その間は、総書記の人民への熱烈な愛情がはっきりと発現された日々であり、人民のために尽くす総書記の積極的かつ犠牲的な献身でつづられた日々であった。

金正恩総書記は、人民のための労苦をこの上ない光栄とみなし、人民のための不滅の業績を積み上げてもそれを当然のことと思い、重荷に重荷を重ねて担っている。

人民への滅私奉仕の崇高な人民観と人民哲学を身に付け、土ぼこりの立つ建設現場を訪ね続け、工場と村、漁村と山間僻地、孤島にいたるまで人民の住むところなら千里、万里をも出向いて熱愛を注ぐ金正恩総書記の英姿は人民の心に親しい慈父の姿として刻み込まれている。

本書は、金正恩総書記の人民のための献身的な奉仕の日々にあった数々のエピソードのうち、その一部を紹介する。

目　次

強調した問題…… 4
謝絶…… 7
百貨店内に設けられた遊戯場…… 12
改修された運動場…… 14
自筆で描き添えた赤い星…… 17
「特別サービス」…… 19
思いは常に科学者たちに…… 22
肉親の情で…… 25
自分のものを大切にすべき…… 28
玉座と権座…… 30
守られた約束…… 33
付け足されたドア…… 36
「黄金海」と名づけたわけ…… 39
もっとも貴重な財宝…… 42
中止された黎明通りの建設…… 45
叶えられた少年の夢…… 49
厳かな誓い…… 52

強調した問題

2012年1月30日の夕刻。

金正恩総書記は厳冬の寒さにもめげず、開店を控えたある商店を視察した。

さまざまの商品が売り場ごとに積まれた店内を見て歩いた総書記は、この商店の建設に際して敷地の選定をはじめ何かと深い関心を向けた金正日（キムジョンイル）国防委員長の労苦と業績について振り返った。

日用品売り場で「コスモス」ヘアピンを手にして見もして歩みを進めた総書記は、めがねの売り場を見過ごしてしまったが引き返して見ることにしようと言い、めがね陳列台の前に戻った。

各種の色めがねや近視・遠視用のめがねがずらりと差し込まれている陳列台の前でサングラスを引き抜いた時、総書記の目にかすかな陰りが走った。

総書記は随員たちを振り返り、「このめがね

陳列台はめがねを取り出してみるのに不便です。めがね陳列台は回転式になっていれば、お客がめがねを選び取って見るのに便利ではないでしょうか」と言った。

そして、サングラスをかけて鏡はどこにあるのかと聞いた。

店員が急いで嗜好品売り場から鏡を持ってきた。すると総書記は、私が見ようというのではない、めがね売り場には鏡が具備されていなければならない、そうすればお客はめがねをかけた自分の姿を見ることができるわけだと言った。

筆記用具売り場のボールペンを手にとって書いてみた総書記は、お客が書いてみることができるよう白紙を売り場に用意して置くようにと言い、化粧品売り場では香水のにおいを嗅いでみられるよう小さい匙型の紙を忘れず置くようにとも指摘した。

人々は普通、香水のしずくを手につけて匂いを嗅ぐが、一つの香水の匂いを嗅いでからまた別の香水のしずくを手につけると匂いが混じって区別がつかなくなるだろうから、紙の小匙を

用意しておき、それを利用して匂いを嗅いでみられるようにすればよいと細かく注意した。

総書記はこのように店内を見て歩き、商店はお客に対するサービスをおろそかにせず、金正日同志の科学者、技術者への恩愛の情がそのまま行き渡るよう努力すべきだと重ね重ね強調した。

3階の食品売り場に上がり、あめ・菓子売り場を見ていた総書記は、手押し車に菓子2箱を載せながら言った。

「あめ・菓子売り場の横手に置かれているこの手押し車は、お客が買う商品を載せて歩く車なのでしょう。私も菓子を車に乗せて行くことにしよう。私がこの菓子を買ったからとして、これが最上等の菓子だと思ってはなりません」

総書記のジョークに随行の幹部たちはどっと笑った。

しかし彼らは、総書記が手押し車に商品を載せて陳列場の通路を歩くのに不都合な点はないかどうかを試していることに思い至り、胸を熱くした。

謝　絶

2012年2月14日。

金正恩総書記は新居に移って生活を始めた慈江道満浦市の人民から送られてきた手紙を読んだ。

「……夢にもお会いしたい敬愛する金正恩同志。

父なる金正日将軍と敬愛する金正恩同志の大海のような深い恩情で鴨緑江のほとりに新築なった245世帯の立派な住宅への入居集会に参加した満浦市民は、限りなく慈しみ深いその恩愛にこみ上げる感激を抑えることができず、謹んでこの手紙をお送り致します。

大きな喪失の痛みに沈んでおられる金正恩同志が、父なる金正日将軍から任せられた愛する人民のために骨身に沁みる耐えがたい苦痛に耐え、重ね重ね施して下さる厚い信頼と恩情にとめどなく流れる涙を抑えることができません。

……

敬愛する金正恩同志、本当に、本当に有難うございます」

金正日国防委員長は生前、満浦市は社会主義の本態が生きており、全ての面で全国の模範だとして、たびたび訪れては市を国境都市にふさわしく立派に整備するようにし、金正恩総書記も満浦市民のためにいろいろと恩情こもる措置を講じた。そうした中で、鴨緑江のほとりに近代的な新住宅が建てられて満浦市民たちが入居する運びとなったのである。

金正日国防委員長と金正恩総書記の大いなる恩情と信頼に励まされて、昨年の営農でも穀物の生産計画を超過遂行し、豊年を迎えることができたとして、手紙は次のように続けていた。

「……

この国境都市が従前の面影を一新し、豊年も続いて、市民の生活が見違えるほど向上した今、父なる将軍への慕情はつのるばかりです。

生涯人民のために献身された父なる将軍に温かい食事を一度としてもてなすことができな

かった罪の多いわれわれ満浦市民は、金正日将軍への切々とした慕情をもって、昨年取り入れた白米の中から1粒1粒選りすぐって100トンを用意し、50キロずつ丁寧に包装しました。

父なる将軍への慕情と信念の誓いをこめて用意した白米100トンを、将軍の銅像の建立事業に寄贈することで人民の道義を多少なりとも果たしたいという私たちの素朴な真情を敬愛する金正恩同志が是非お受け取りになって下さるよう切にお願い申し上げます。……」

手紙を読んだ総書記は、満浦市民に対する愛と信頼のこもった意義深い自筆の返書を送った。

「慈江道党責任書記、

満浦市党責任書記！

金正日同志の愛によって建てられた新居に移った満浦市民たちが喜んだということですが、私はこの手紙を本当に嬉しく読みました。

今後、道党と満浦市党の活動家たちは、金正日同志の温かい恩情が新築の住宅と共にいつまでも伝えられるようにすべきであ

り、常に人民の生活上の問題、隘路に細心の配慮を寄せて即時解決し、人民の利益を最優先して全ての活動を進めることで、わが党の人民的施策が金正日同志の尊名と共にとこしえに花咲いていくようにすべきです。満浦市が金正日同志の銅像の建立に参加している軍人たちに、心をこめて1粒1粒選りすぐって用意した白米100トンを送りたいということですが、その誠意に感謝します。

本当に嬉しく思います。しかし、この問題は誠意のみを受けて謝絶します。

領袖と血縁的な関係を保持しているわが人民が領袖に捧げるこの白玉のような心は、私が金正日同志にその通り報告します。

私は道党と市党の活動家たちが、人民の利益と幸福のために生涯の全てを捧げた金正日同志の人民愛の崇高な志を体して、彼らが申し出た白玉のような白米を、金正日同志の恩愛として市内の人民と子供たちにそのまま贈ってもらえたらと思います。

必ずそうして下さい。

満浦市民の手紙を読んで本当に力が沸き、一層奮発して革命に尽くさなければという決心が固くなります。

金正恩

2012.2.14」

百貨店内に設けられた遊戯場

2012年5月30日、平壌児童百貨店を視察し、1階から3階まで全部見て回った金正恩総書記は、「平壌児童百貨店の各階に子供たちのための遊戯場を設けるようにすべきです」と言った。

その意味がよく理解できず顔を見合わせている幹部たちに向かって総書記は、深い思いをこめて語った。

児童百貨店の各階に遊戯場を設け、大人たちが店内で買い物をしている間、子供たちがそこで遊ぶようにするとよい。各階に子供たちの遊び場を設けるとしても別途に場所をとる必要はない。ホールとか適当な場所に一定の区切りを設けて子供たちの遊戯施設を備えて置くとよい。子供たちの遊戯場を設ければ広すぎる売り場の面積も縮まることになる。……

こう助言して百貨店を後にした総書記は、数

日後、数千点もの室内遊戯用器材を建設現場に贈った。

その1カ月後再び平壌児童百貨店を訪れた総書記は、子供たちが遊戯場に興味を覚えたら家に帰ることも忘れて遊ぶだろうから、父親や母親はわが子たちを見失うことを心配する必要がなくなるだろう、それで平壌児童百貨店に遊戯場を設けるよう指示したのだと語った。

責任幹部の受けたショックはたとえようもなく大きかった。

彼女も2人の息子を育てた母親であり、今は2人の孫までいる身である。けれどもわが子や孫を伴って買い物に出かける親に対して、雑踏の中で大事な子を見失ってはいけないから、手をしっかり握って歩けと注意を与えることはあっても、父親や母親たちの気持ちに深く思いを致して商店内に遊戯場を設けたらと考えたことは夢にもなかった。

改修された運動場

金正恩総書記が倉田通りに新築された慶上幼稚園を視察したというニュースが伝わった時のこと。

その慶上幼稚園の前を通り過ぎていた人たちは思いがけない光景に出合った。軍人建設者たちが舗装したばかりの素晴らしい運動場を掘り返していたのである。

広くてすっきりした運動場をどうしてまた掘り返しているのだろうと不審に思っていた人たちは、幼稚園の先生から次のような感動的な話を聞かされて、なるほどとうなずいた。

その前日の2012年5月30日。この日平壌地方の天気は大変暑かった。

強い日差しの中幼稚園を訪れて運動場に立った金正恩総書記を、随員たちは早く涼しい部屋に案内しようとした。

ところで、足を踏み出した総書記が運動場に

目を凝らし、眉をひそめたのである。
　随員たちは、どうしたのだろうかと思った。
　ピッチをもって舗装されている運動場には幾つかの遊戯器材が立っていた。
　総書記は、慶上幼稚園の運動場が全面ピッチで舗装されているが、子供たちの遊戯場まで舗装したのはよくない、遊戯場の地面には砂を敷くか、芝生をつくるべきだ、子供たちがピッチで舗装した遊戯場でぶらんこに乗って落ちたら傷がつかないとも限らないと気遣わしげに言った。
　そして幼稚園の建設を担当している関係幹部に「慶上幼稚園の遊戯場に砂を敷くか芝生をつくるかして、子供たちが傷つかないようにしなければなりません」と強調した。
　総書記の注意を聞いて幹部たちは自分たちのミスに気づいた。
　やんちゃ盛りの子供たちが夢中になって駆け回る幼稚園の運動場をピッチで石のように固く舗装したことできれいなものだと満足し、雨天の日も子供たちの履物に泥がつかなくなったとして喜んでいたのである。

　けれども総書記は、幼稚園に足を踏み入れた途端、運動場のこのささいな不備をも見過ごさなかったのであった。
　総書記の指摘を受けた軍人建設者たちは、その夜のうちにピッチの舗装を掘り返して地面に弾力性の強いゴム板を敷き、さらに遊戯場に緑地を造成して、子供たちが心ゆくまで遊びたわむれるようにした。

自筆で描き添えた赤い星

朝鮮労働党創立67周年を迎えた日、金正恩総書記は1通の手紙にいつまでも目を凝らしていた。

平壌市牡丹峰区域キンマウル第1幼稚園に通う五つになる園児が、字を学んだことが嬉しくて嬉しくて寄こした自筆の手紙であった。

その子は数カ月前、不治の病におかされていた母親をなくしていた。

けれどもその子は悲しみから立ち直り、熱心に字の書き方を習い、人民軍のおじさんたちに自筆の手紙を100通以上も送ってテレビにまで紹介された。

その園児は、その誇りと、今に大きくなったら人民軍の軍人になる決心もしたということを手紙に書き、写真まで同封して総書記に送ったのである。

手紙を一字一字注意深く読んだ総書記は、

すぐにペンを取った。

俊赫ちゃん！　感心なことだ。本当に善い子だ。早く大きくなって立派な人間になるのだよ。私の誇らしい俊赫ちゃんに赤い星五つを上げよう。……

総書記は返書の終わりに赤い星五つを描いた。

字を習い始めたばかりの幼児のつたない手紙を最後まで丹念に読み、わざわざ親書を送った金正恩総書記！

ことにその日は、他の日よりもいっそう多忙な時間を送っている総書記であった。

早朝から幹部たちと共に金日成（キムイルソン）主席と金正日国防委員長が永生の姿で安置されている錦繍山太陽宮殿を訪れ、その後も党創立67周年行事にかかわるさまざまの指示を与えるために瞬時の休息も取れず国務に忙殺されていた。

にもかかわらず総書記は、平凡な幼児の胸に芽生えている大事な美しい夢を守り花咲かせようとして、熱い愛情をこめ、深い信頼のこもる返書をしたため、さらに赤い星まで丁寧に描き添えたのである。

「特別サービス」

朝鮮労働党創立68周年を迎えて風致秀麗な大同江畔に紋繡遊泳場が立派に建設されたが、その時、そこではちょっとばかり風変わりな光景が繰り広げられた。

まだ落成式のなされていない2013年10月13日午後、小さな子供たちでもない、孫さえいそうな年輩の大勢の幹部たちがのんびりと遊泳を楽しんでいたのである。常識ではどうにも理解しがたい驚くべき出来事であった。

金正恩総書記の人民への愛の贈り物である紋繡遊泳場の落成式を前にして、どういうわけで幹部たちが一般の人民をさしおいて破格ともいえるサービスを受けることになったのだろうか。

遊泳場の従業員すらその理由については何も知らなかった。

この日、紋繡遊泳場の落成報告を受けた総書記は、昼時幹部たちを伴って遊泳場を訪れ、その内

外を視察して顔をほころばせ、たいそう喜んだ。

屋内と野外の遊泳場は共に大変素晴らしい、とりわけ波涛遊泳場を見ると、砂浜に立っているような気分になる、設計も上出来だし、軍人建設者たちの施工も素晴らしい出来栄えだと評価した総書記は、午後4時から幹部たちに開放してサービスをすることにしようと語った。こうして、国家的な落成式が行われる前に大勢の幹部がサービスを受けることになったのである。

幹部たちは大喜びした。ここでとりわけ彼らの関心を惹いたのは、タイプの違いで名称が異なり色もとりどりの、目に新しいウォータースライダーであった。

彼らは矢のように滑り落ちては急上昇もするジェットコースター式ウォータースライダーを楽しんでその間の疲労をさっぱりほぐしているかのようであった。

しばらく経って再び遊泳場にやって来て彼らの楽しげな様子をしばらく眺めていた総書記は、ウォータースライダーの継ぎ目部に注意深い視線を向け、それらの継ぎ目部を安全に処理

して人々が傷つくようなことが絶対にないようにしなければならないとして、随行の幹部にこう言った。

人民が利用する際傷つかないよう、継ぎ目部の安全状態をはっきり確かめようとして、今日幹部たちに先に利用してみるようにしたのだ。シリコンパテで仕上げをきれいにし、人々がスライダーに乗って傷をつけることがないようにしなければならない。……

その時になって一同は、国家的な落成式に先立って幹部たちのための遊泳を手配した総書記の思慮の深い計らいを知ったのである。

思いは常に科学者たちに

2014年1月の某日、早朝から終日金正恩総書記に同行し指導を受けた国家科学院の責任幹部は、思いがけなくもその夕方、また総書記に呼ばれた。

感激した彼はその日の出来事を記録に残しておかねばと考え、その題目まで思い浮かべた。

『科学者のために捧げた一日半』

前日の午後、科学・教育部門の責任幹部に科学者通りの建設にかかわる意見を既に与えていた総書記は、この日の早朝、電話で彼に、夜通し恩情科学地区に建設する住宅街の名称について考えたと話し、その後午前中は国家科学院の諸所を視察し、国の科学を振興させる上で必須の指針を与えもした。

そして瞬時の休息も取ることなく、科学者休養所の建設予定地である延豊湖の湖畔に直行し、ここで午後の大部分を過ごした。

延豊湖までの山道を走りほこりにまみれた総書記の乗用車を眺めながら胸を熱くした国家科学院の責任幹部は、その夕方再び総書記に呼ばれたのであるから、総書記が科学者たちのために貴重な時間を傾けた一日半の体験者、目撃者になったわけである。そこでこの伝説のような物語を全国に伝えようという衝動を覚えて、記録の題目まで瞬時に思い浮かべたのであった。

その日の夕方、一幹部が国家科学院責任幹部の意図について、この同志は今日総書記が科学者たちにめぐらした愛についての記録を残しておきたいとして、『科学者のために捧げた一日半』という題目まで考えていると総書記に言った。

同座していた幹部たちはみなよい思い付きだとうなずいた。

上気している国家科学院責任幹部に親しみ深い視線を向けていた総書記は、私がどうして科学者たちのことを一日半だけ考えていると言えようか、と言った。

責任幹部はうろたえた。

いろいろな考えが胸中に去来したが、なんと

言ってよいか分からず押し黙っていると、総書記は、自分は科学者たちのことをただ一日半だけ考えたわけではない、一年中考えているのだと言って豪快に笑った。

実際一日半だけではなかった。

昨年の一年だけにしても、蒸し暑い夏のさなかにおける科学者用住宅建設現場の視察、全国の感動を呼んだ銀河科学者通りと金日成総合大学教育者アパートへの大量入居、全国科学者・技術者大会。……

朝鮮の科学者の一年一年はまさに伝説のように流れていたのである。

肉親の情で

国際児童デーを迎えた2014年6月1日の午後、金正恩総書記は党中央委員会の一幹部に電話を入れた。

「今日は国際児童デーだが、平壌愛育院ではみなどう過ごしていたのでしょうか」

総書記の指示で、午前中平壌愛育院の院児たちの生活状況を確かめてきたばかりであった彼は、そこで見聞きしたことをすっかり報告した。

総書記から送られた盛り沢山の食膳を前にした院児たちは、自分たちを祝うべく訪ねてきた市内の各幹部や近隣の住民たちと一緒に祝日を楽しく過ごしていたという。

彼は、しばらく見ぬうちに院児たちは丈が高くなり、体も肥え、血色もかなり明るく、愛らしくなっていましたが、今また総書記同志の愛の贈り物を受けてとても喜んでいます、と報告した。

顔をほころばせて総書記は今一度尋ねた。

「平壌愛育院では院児たちに昼食に何を用意してあげたのですか」

彼は、玉流館からは平壌冷麺が届けられ、当該区域の料理店その他のサービス網からも調理師たちがやってきていろんな料理を作り子供たちを喜ばせたと、得々として語った。

ところが総書記は心配そうに「子供たちが冷麺を好むだろうか」と呟き、夕食のメニューはどうなっているのかと重ねて聞いた。

一瞬彼は戸惑った。

あまりにも豪勢な昼食に感嘆したあまり、夕食のことまでは考えなかったのである。

夕食については考え及びませんでした、今すぐ確かめて報告致しますという答えに、総書記は話題を変えて、平壌愛育院の院児と保母はそれぞれ何人かと尋ねた。

彼はこの質問にも正確に答えることができなかった。

総書記は院児と保母が各何人ほどになるだろうが、その正確な数を確かめて報告するようにと言った。

直ちに平壌愛育院の実態を確認した幹部は驚いた。院児と保母の人員が総書記の言葉通りだったのである。
数時間後、キジ肉と果実ヨーグルトを用意して平壌愛育院を訪れた総書記は、肉親の情をもって、虚弱児には空腹時に蜂蜜を与えるとよいとして、蜂蜜を食べさせる方法や栄養管理法についても教えた後、ふと誰にともなく言った。
今日の昼食に冷麺を出したそうだが、子供たちは一般に冷麺を好まないのだが、と。……
愛育院がこの日豪勢極まる祝いの膳に恵まれたとはいえ、昼食に冷麺を出したことがどうにも心につかえ、院児たちが喜ぶに違いない高栄養のキジ肉と果実ヨーグルトをわざわざ準備して総書記は自ら愛育院を訪れたのである。
総書記は卵の調理法についてもいろいろと教え、子供たちにご飯ばかり食べさせず、適切に間食を与えることだ、ヨーグルトは食後に与えるとよいだろうと、親心をもって教えた。

自分のものを大切にすべき

2014年8月6日、朝早く出勤して一日の作業を手配する平壌靴下工場の責任幹部の表情は得意満面の体であった。
その頃児童用靴下に対する人気が大変なものだったのである。
そんな時、金正恩総書記が当工場の視察に赴くという通知が届いた。彼は大喜びして出迎えの準備を始めようとしたが、総書記は早くも工場に到着した。
出迎えた彼の手を温かく取ってから職場を見て回り、製品サンプル室に案内された総書記は、児童用靴下展示台の前でたいそう喜んだ。
そこには数十種もの漫画の模様を入れた児童用靴下が並べられていたのである。
それを見回して微笑していた総書記は、児童用靴下のサンプルを見ると、動物の模様を入れたものが多い、本当に愛らしくよく出来

ていると重ねて言った。
　ところで、外国のアニメに出てくる子グマの模様の入った靴下1足を手にしてしばらくためつすがめつしていた総書記は、児童用靴下にわが国のアニメ『かしこいタヌキ』に出てくる動物の模様を入れるとよいのだがと言った。
　自分たちのミスに気づいて戸惑っている工場の責任幹部に向かい、総書記はいたわるような口ぶりで『かしこいタヌキ』の主人公である子タヌキや子ネコ、子グマなど3親友の模様を入れたらよいだろうと言って豪快に笑った。

玉座と権座

　2014年10月21日、金正恩総書記は延豊科学者休養所を視察した。
　わが国の科学者や技術者たちが心ゆくまで休息のひと時を過ごせる今一つの休養所が出現したことに大きな喜びを覚え、満面に微笑を浮かべて歩いていた総書記は、軍人建設者たちの手になる葡萄園休息場に至った。
　歩道に沿って葡萄園の3番目の休息場に至った総書記は、そこの一つの椅子に目を止めた。他のどの椅子よりもはるかに立派である。
　他の花崗岩製の椅子には編み目の敷物が敷いてあったが、その椅子には見るからにして上製の絹の座布団が敷いてあったのである。
　総書記は怪訝な面持ちで随行の幹部たちを振り向いた。
　一幹部がすかさず、総書記がお越しになったら革命指導の道で重ねた疲労を少しでも癒さ

れるようにとの思いをこめて軍人建設者たちが、400キロもの花崗岩を採取し、誠意をこめて作った特別製の椅子ですと、得意気に説明した。そして、座布団は絹地にアヒルの羽を入れ、一針、一針心をこめて縫い上げたものですと言って、こうお願いした。

「総書記同志、ここで少しお休みになって下さい」

総書記の顔色がさっと曇った。

他の椅子と当の椅子を改めて見比べた総書記は、一体これは玉座なのか、それとも権座なのかと聞いた。一同は緊張した。

玉座なら国王の座る席であり、権座なら権力者の座である。総書記の質問の真意はどこにあるのかをはかりかねて、みんな戸惑った。

そもそもその椅子にいかに大きな誠意がこもっているにしても、人民のために昼夜を分かたず献身している総書記の苦労に比べれば、それは寸毫も誇るに価するものではなかった。とは言え、総書記がそのことを示唆しているはずはない。

総書記を見つめるばかりでなんとも答えられず押し黙っている彼らに向かって総書記は、これは誰のためのものかと再び質問した。

こう聞き直す総書記の問いにも随員たちは答えるすべを知らなかった。

彼らをしばらく見つめていた総書記はやがて、穏やかな口調で言った。

このような形式主義をなくさなければなりません。軍人たちをこんなことよりも真の愛国主義で教育することがとりわけ重要です。私はこんなことを好みません。……

守られた約束

2014年10月28日、金正恩総書記は改装なったメーデースタジアムで平壌市民と共に国家女子サッカー総合チームと月尾島女子サッカーチームの試合を観覧した。

試合の終了後、熱狂的に歓呼する選手や監督をはじめ観覧者たちに長いこと手を振って答礼した後、歩みを移した総書記は、某幹部を呼び、この前金貞選手に会えなかったが、彼女はここへ来ているのだろうか、来ているなら早速呼んでくるようにと言った。

彼の胸は熱くなった。総書記は10日前の約束を忘れずにいたのである。

その日総書記は、第17回アジア競技大会をはじめ、その頃世界選手権大会などの国際競技で金メダルを獲得した選手と監督たちを身近に呼んだ。そして、始終明るい微笑をたたえて、みなさんに早く会いたかった、君たち

は最近わが共和国の尊厳を決死の覚悟で擁護し、国の偉容を全世界にとどろかせたとし、第17回アジア競技大会で栄誉の金メダルに輝いた女子サッカーの責任監督以下全選手の殊勲を心からたたえた。

ついで卓球選手と監督たちに近づき、彼らを一人ひとり見回した。

みんな、どうしたわけだろうかと思っていると、総書記は金貞選手はなぜいないかと尋ねた。

一幹部が、実は彼女は今ある国際競技に参加していて国内にいないと答えた。

総書記は、第17回アジア競技大会卓球の混合ダブルスに出場した金赫鳳と金貞が最後まで立派に健闘したとして2人の殊勲を改めてたたえ、ここに金貞選手がいないとは残念なことだ、今に適当な機会に彼女にきっと会うことにすると言った。

その日の約束を総書記は忘れていなかったのである。

金貞選手は喜び勇んで総書記の前に現れ、丁重に挨拶した。

総書記はにっこり笑って、金貞選手の殊勲を今一度高く評価し、彼女が第52回世界卓球選手権大会混合ダブルスで金メダルを獲得し、続いて第17回アジア競技大会卓球混合ダブルスでもまた金メダルを獲得して祖国の栄誉を輝かせたが、実に殊勝なことだ、今後ともいっそう練習に励み、国際競技で引き続き立派な成績を挙げるものと期待していると激励した。

総書記は、今日は記念写真を撮ることにしようと言って、彼女を傍らに立たせた。

付け足されたドア

朝鮮労働党創立70周年に当たる意義深い2015年、親のない子たちを祝福すべく新年早々平壌育児院と平壌愛育院を訪れた金正恩総書記の喜びはたとえようもなく大きかった。

食事室と総合遊戯場、寝室、知能遊び部屋などそのどれもが世界に誇りうるすばらしい幼児の家であった。

屋内及び野外の遊泳場を見た後、脱衣室の前の廊下を歩いていた総書記は、脱衣室の低い出入り口に付いているドアに目を止めた。

このとき、愛育院の院長が、金正恩同志がこの前おいでになった際はここにドアがありませんでしたが、その後、人民軍の軍人たちがわずか2日間でこのようにドアを取り付けてくれたのです、と申し上げた。

総書記もその時のことを思い出したらしく、遊泳場の脱衣室の出入り口にドアを付けたのは

確かによくやった、この前来てみた時はドアがなかったが、このようにドアを取り付けたのは上出来だと笑って言った。その言葉に随員たちはどっと吹き出した。

前年の10月某日、竣工直後の育児院と愛育院を視察した際、屋内遊泳場を見た後、脱衣室の出入り口にドアがないことに気づいた総書記は、ここにはドアが必要だ、きっとドアを付けるようにと言った。その意味をはかりかねて随員たちは首をかしげた。

そんな彼らを見回して総書記は、ドアがないと院児たちが服を着替える有様を外から見られるのでよくない、子供たちが自分のそれを見られたら大変じゃないかと言って豪快に笑った。

随員たちはどっと笑ったが、反面総書記の細かい心づかいにいたく感嘆した。

その時のことを改めて想起している彼らに向かって総書記はさとすように言った。

院児たちはまだ幼いけれども出入り口にドアを付けて服を着替える様子を外から見えないようにしなければならない、院児たちが幼い頃

から恥ずかしさとはどんなことかということも知るようにしなければならない、と。

この日総書記は、院児たちを幼い頃から生活の全ての領域で礼儀・道徳をきちんと守るようしつけることの重要性について強調した。

「黄金海」と名づけたわけ

2015年5月8日、金正恩総書記は朝鮮東海岸の新浦遠洋水産連合企業所を視察した。

幹部たちは総書記から貴重な助言を得ることになったと喜んでいたが、総書記が差し回したヘリコプターに乗って当企業所にやって来た水産部門の責任幹部だけは総書記に挨拶もまともにできずうなだれていた。

人民軍傘下の水産部門では東西の海域で同時に空前の大漁をもって、社会主義の海の薫りを謳歌していたが、社会では水産業が低迷を続けていたからであった。

総書記は、そのような彼を元気づけるべくこう語った。

「今日、私が社会の水産企業のうち真っ先に新浦遠洋水産連合企業所にやってきたのは、本企業所が金日成同志と金正日同志の指導業績を一層輝かせ、黄金の海の新しい歴史

をつくるたたかいの旗じるしを掲げて進むようにするためです」

総書記の言葉に責任幹部は答えるすべを知らなかった。実際、朝鮮における特筆すべき漁労神話は、既に金日成主席の指導を得て生み出されていた。

当時、朝鮮東海は世界屈指の漁場としての名を馳せ、スケトウダラなどの場合は年中家々の軒に束にして吊り下げられているという喜ばしい風景が毎年続いていた。

そのような水産業が試練にさらされたのは、敵対勢力の反共和国孤立圧殺策動に災いされたからであった。

悪辣を極める制裁と封鎖を蹴って水産部門を立ち直らせるたたかいは社会主義守護戦だという決死の覚悟を、その幹部は持ち得ていなかったのである。

遅まきながら痛烈に反省し、自らを鞭打つ彼を見つめていた総書記は、励ますように言った。

現在、水産部門は人民の食生活を高めるうえに不可欠の主要な部門である、水産部門はまず

高性能の現代的漁船を多く建造しなければならない、社会で新しく建造する漁船の名を「黄金海」と命名すべきだ、人民軍に贈った漁船の名を大漁をねがい、豊穣の秋をもたらすことと同様な意味を持たせて「丹楓」と名づけたが、社会で新しく建造する漁船の名は黄金の海の歴史的大門を開くという意味で、「黄金海」と命名するとよいだろう。……

もっとも貴重な財宝

2015年8月、朝鮮の北辺の都市羅先市を襲った豪雨につぐ大洪水は、莫大な人的・物的被害をもたらした。その復旧に取り組んでいた9月初めのある日、復旧指揮部に思いもよらぬ出来事が報告された。

一部の住民が、家屋を失った人たちのために人民軍が元の家よりもはるかに立派な住宅を建ててくれるという話を伝え聞いて、修理すれば済むはずのわが家を自分たちの手で取り壊してしまったというのである。

彼らは、党が立派に建ててくれる新居で暮らしたいという欲望に駆られて、思慮分別もなく行動したのであった。

思いがけぬ大災厄で住民たちが路頭に迷う羽目に陥ったこの重大事態を一日も早く克服しなければならない時に、国の負担をいささかなりとも軽減しなければという思いはこれっぽちも

なく、ただわが欲望を先立たせてやみくもに行動した彼らの振る舞いにみんな唖然とした。

そうした時の9月17日、遠方の羅先市の水害状況を確かめ、復旧対策を指導すべく現地を訪れた金正恩総書記は、この事実についての報告を受けた。

幹部たちの話を注意深く聞いた総書記は、穏やかな口調で、羅先市を立ち直らせるのは単に天災の後始末をする取り組みではなく、わが祖国の尊厳と党に対する人民の信頼を守るためのたたかいであると強調した後、こう続けた。

「被害地域の一部の住民が、わが党が新しい住宅を建ててくれるということを知って、修理すれば使える家を自分たちの手で取り壊したという問題が提起されましたが、それを問題視すべきではありません」

思いもよらぬ言葉に驚いている一同を見回して総書記は、こう言った。

「彼らがわが党を信頼していなかったとしたら、あえてそんなことはできなかったでしょう。わが党に対する人民のその信頼こそ

われわれには何よりも大切です。財宝の中でも最も貴重な財宝は人民の信頼です」

彼らが取り壊した家を建てるために費やされた資材や資金が国の貴重な財貨であることは言わずもがなであるが、彼らの誤った行為を母親に甘えるわが子のいたいけな振る舞いと同じようにみなした人はほかには誰もいなかった。

中止された黎明通りの建設

朝鮮で「200日間戦闘」（2016年に進められた全国的な増産運動）さなかの2016年8月、咸鏡北道豆満江沿岸の6市・郡が大水害を被り、おびただしい住民が路頭に放り出された。

朝鮮東海から突如強風と高潮が吹き寄せ、かてて加えて豆満江流域の全般にしのつく豪雨が降りしきり突風が荒れ狂ったのである。

9月初め、党中央委員会の責任幹部たちを至急招集した金正恩総書記は、咸鏡北道を気象観測の開始以来初めて見られる暴風と豪雨が強襲し、道内の多くの市・郡が甚大な被害を受けた、今回の被害はそれこそ大災厄だと語った。

愛する人民が受けた大災難に胸を痛め、しばらく口をつぐんでいた総書記は語をついだ。

「この予想外の大天災と関連して、『200日間戦闘』の目標は変更されることになりました」

幹部たちは思わず息をのんだ。総書記は言葉を続けた。

「おびただしい人たちが大水の被害にあって路頭に迷っているのに、われわれがこの問題を解決できずに『200日間戦闘』を締めくくってもなんら意味がありません。

『200日間戦闘』を水害の復旧へと方向転換しなければなりません」

こう言って、黎明通りの建設を当分中止することにしようと語った。

幹部たちは驚いた。

総書記が黎明通りの建設を宣言した時、全世界が沸いた。膨大な規模の建設をわずか数カ月で成し遂げるという驚くべき速度のためばかりではなかった。敵対勢力の策動が極度に達している緊迫した時期に黎明通りの建設が公表されたからであった。

総書記が完成段階に至った黎明通りの建設をなぜ中止しようというのか、その意図が彼らには理解できなかった。

意外な言葉に驚き顔を見合わせている幹部

たちを見回していた総書記は、その訳を諄々と説いた。

　われわれが黎明通りの建設を社会主義と帝国主義との熾烈な対決であると宣言し、本年末までに終えようと計画したが、その黎明通りの建設も当分中止しなければならない。黎明通りの建設をなぜ中止するかということについてはみな正しい認識を抱く必要がある。

　人民が大水害に見舞われて路頭に迷っているにもかかわらず、それを放置して黎明通りの建設を進めることができようか。よしんば黎明通りの建設をそのまま進めてやり遂げたとしても、それを成果だとは言えない。われわれが黎明通りを建設するのもみな人民のためではないか。……

　しばらく口をつぐんで一同を見回した総書記は、全ての幹部と軍人と勤労者が被害地域人民の住宅建設に総力を集中する党の意図をはっきりと知り、水害の復旧にこぞって奮い立つようにすべきである、黎明通りの建設に投入された力を全て水害の復旧に回し、黎明通りの建設に

必要な資材の運送を担当している諸単位も水害の復旧に参加するようにしなければならない、と強調した。

　黎明通りの建設は、このようにして当分中止されることになったのである。

叶えられた少年の夢

咸鏡北道北部の水害を復旧する取り組みが力強く進められていた2016年10月のある夜のこと。

茂山郡の一少年が寝床につき、深い眠りに落ちて夢を見ていた。級友たちと一緒に松涛園国際少年団野営所の水族館や屋内遊泳場などで楽しいキャンプ生活を送っている夢であった。

朝目が覚めてそれが夢だったと知り、少年は残念なあまり、登校後夢の話を級友たちに語り、惜しい夢を見たものだと悔しがった。

ところがなんとその日、思いもよらぬ吉報が伝えられたのである。

金正恩総書記が咸鏡北道北部被害地域の子供たちを松涛園国際少年団野営所に今一度送る措置を取ってくださったというのであった。

少年はわが耳を疑った。

しばらく前咸鏡北道北部被害地域の少年1000余名が既に松涛園国際少年団野営所に向けて

出発しており、それにキャンプ生活を冬を目前にして行うなどということも初めて聞く話だったからである。

少年にはそれが理解できなかった。どうしてそんな夢のような出来事が現実となって起きたのだろうかと。

その数日前のこと。総書記は幹部たちを前にして、「北部被害地域の少年たちを松涛園国際少年団野営所に送ってキャンプ生活を楽しむようはからったが、キャンプ生活をしている少年たちは言うまでもなく、その親や当地の幹部たちもみな本当に喜んでいるそうです」と喜ばしげに語った。

この世にまたとない思いもよらぬ幸運に浴した被害地域の住民や子どもたちの喜びはたとえようもなく大きかった。

彼らの喜ぶ姿を描き見ているかのような顔色を浮かべて総書記はこう言った。

「北部被害地域にいる初級中学校の生徒たちのうち今回のキャンプ生活に参加できなかった子どもたちが670余名いるということなら、

今年のキャンプ生活を今一期さらに行うようにして、彼らも松涛園国際少年団野営所に送ることにしましょう」
総書記のこの恩情あふれる措置を話して聞かせた担任の教師は、少年にこう言った。
自然界の大地には日陰があるが、偉人の懐には日陰なるものがあるわけはない、子どもたちを人一倍愛するわが元帥様がいられるからこそ君の夢は叶ったのだ、と。

厳かな誓い

2017年の元旦、金正恩総書記の新年の辞を聴取すべく、全国の人民はテレビを前にしていた。
人民の理想と夢を燦然たる現実に花咲かせるための課題を語る総書記の一言一言に注意深く耳を傾ける全国の人民は、輝かしい新年の姿をまぶたに描き、歓喜と激情に包まれた。
「いつも気持ちだけで、能力が追いつかないもどかしさと自責の念に駆られながら昨年を送りましたが、今年は一層奮発して全身全霊を打ち込み、人民のためにより多くの仕事をするつもりです」
総書記の声はかなり低かったが、人民はいたく心を打たれ、過ぐる一年を顧みた。
実に息つく暇もなく次々に劇的な変化が起き、奇跡に満ちた年であった。
このように朝鮮革命に歴然たる痕跡を残しながらも、人民のためにもっと多くの事を成し

得なかったと深く自省する総書記を仰いで人民は深い感動に包まれた。

総書記の言葉は続いた。

「私は、全人民が金日成同志と金正日同志を信頼し、前途を楽観して『われら幸せうたう』を歌っていた時代を、過ぎ去った歴史の中の瞬間ではなく、今日の現実にするために奮闘努力するつもりであり、一点のくもりもない清らかな心で人民に忠実に仕える人民の真の忠僕、忠実なしもべになることを、この元旦に厳かに盟約します」

愛と献身の足跡

編　集 ： 崔英浩
発行所 ： 朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
発行日 ： 2025年11月

ㄱ-250880392943

E-mail:flph@star-co. net. kp
http://www. korean-books. com. kp

ISBN 978-9946-0-2624-4

朝鮮民主主義人民共和国
外国文出版社
2025